

道しるべの会

才能教育研究会 スズキ・メソッド 東海地区三科連絡協議会
スズキ・メソッド 東海オフィス
〒465-0093 名古屋市名東区一社 1-89 寿山ビル 4階
TEL&FAX : 052-753-9878
開所時間 : 平日 10時~13時
e-mail : suzukimethod_tohkai@yahoo.co.jp

『鈴木鎮一先生著「愛に生きる」より』

講師：深谷 正徳 さん

(前 東名古屋支部長)



日時：7月17日(祝・月)

10時~11時30分

場所：スズキ・メソッド東海オフィス



7月17日に東海オフィスで行われた「道しるべの会」のご報告です。

梅雨明け間近の海の日(祝日)、講師に深谷正徳さん(前 東名古屋支部長)をお迎えして、道しるべの会が開かれました。平生仕事で忙しいお母様もかけつけてくださり、会場では10名(指導者・スタッフを含む)が集まり、アットホームな雰囲気の中、鈴木鎮一先生著「愛に生きる」を手にお話にお話を傾けました。

深谷さんは大学時代の恩師を通してスズキ・メソッドを知り、お子様方にぜひスズキ・メソッドをとお思いになられたそうです。その後「愛に生きる」を読まれ、お子様方が教室で学ばれるようになり、スズキ・メソッドとの関わりは今では40年以上(うち11年間を支部長)でいらっっしゃいます。

§スズキ・メソッドの目指す人間像＝「愛に生きる人」

はじめに、スズキ・メソッドの目指す人間像について鈴木先生のお言葉を通してお話頂きました。

人間性創造

わが子をヴァイオリンを演奏する道具につくりあげてはいけません。

わが子を、人間として高い感性と知性をもった人間に育てあげる親の仕事に対して、私共は賛美するわけである。

他人に聴かせることができる技術だけを習得したとて何になるだろう。

子供が人間として、自分の中に高い美しい感覚を育てられてゆくことこそ、ほんとうに尊い人間性創造であり、親たちの大きな慈悲である。そのためにこそ音楽をおさめさせているということをお忘れしてはならない。

～1953年(昭和28年)会報より～

このように、スズキ・メソッドは心を育て、能力を高め、立派な人間になるためにあると言われますが、深谷さんは、スズキ・メソッドの目的を「立派な人間、感覚の高い人を育てること」という表現では足りない何かを感じていらっしまったとのこと。そこへ、5月の早野会長のご講演を聞かれ、「鈴木先生が目指されたのは『愛に生きる人』の言葉に、「そうか！(わが意を得たり!)」と、捉え方を新たにされたそうです。

鈴木先生が、クライスラーやカザルスをお手本にするようおっしゃるのも、ヴァイオリンやチェロの名手だからだけでなく、人間的にもすばらしく、まさに愛に生きた人にふさわしい人だからなのです。

それでは、どのようにしたら「愛に生きる人」になれるのでしょうか？

§ 赤ちゃんの持つ潜在能力（赤ちゃんはみな天才の卵）

「天才という生まれつきの才能はない。天才とは、そのように育てられた人間に対する尊称である。」

～「愛に生きる」 P. 47 より～

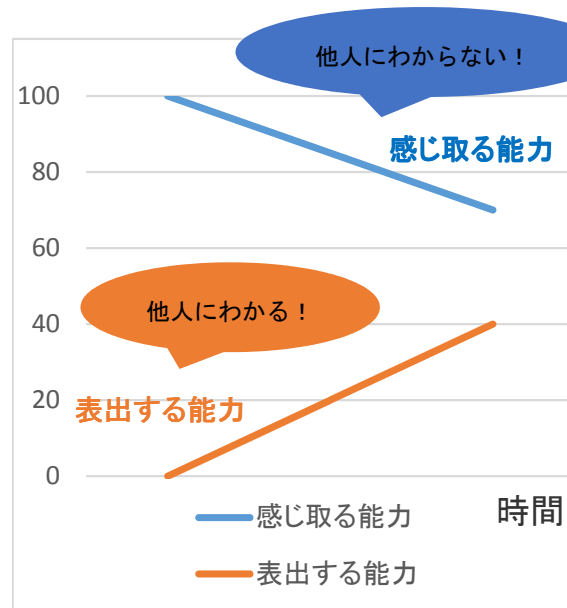
「天才とされる能力は遺伝でなく、環境と訓練によって育つ」との鈴木先生のご明言通り、深谷さんいわく、モーツァルトも今話題の将棋の藤井四段も、たまたま条件が揃ったことで、ある分野でものすごい能力を発揮したまでのこと。でもこれは、限られた一部の人だけではなく、同じような潜在能力はこの世に生まれるすべての赤ちゃんに備わっています（私たち大人みなに備わっていました！）。

この素晴らしい赤ちゃんの持つ潜在能力に、「より早い時期」「より良い環境」「より多い訓練」で働きかければ、誰でも能力を高めることができるというのがスズキ・メソードの考え方ですが、ここで深谷さんは、幼児の心の問題に着目されました。

近年お孫さんのご成長を通して、幼児の潜在能力・可能性について深く実感されることが多くなった深谷さん。ある時、お孫さんが、教えられたわけでもないのに、薬師如来像に自然に手を合わせ頭を下げる姿を見てびっくり！その後、ご自身のお孫さんだけでなく、他の幾多の事例にも接し、「赤ちゃんは、大人では感じ得ない何か（本当に美しいもの、正しいもの）を感じ取る力を持っている」と強く感じられたそうです。幼児だからこそバッハやモーツァルトの名曲、ミレーやルノアールの名画の精神性の高さを感じ取ることができるのではないのでしょうか。赤ちゃんは未熟で能力が低いと思われがちですが、それは表現する能力が未熟なだけ。感じ取る能力は大人が到底及ばない完璧なまでの感受性を持っているのでは・・・と。

深谷さんは能力を、赤ちゃんが持っている『感じ取る能力（＝他人にはわからない能力）』と大人になるにつれて身につけていく『表出する能力（＝他人にわかる能力）』の大きく二つに分けられました。深谷さんがイメージされる、この二つの能力の関係は右記のグラフのようになります。

生まれたばかりの赤ちゃんの未熟な表現能力を0%とすれば、それは肉体的成長・環境からの刺激・訓練などによって右肩上がりになります。それに対して、感じ取る能力は100%からスタートし、時間の経過とともにどんどん低下し、本質を見抜くことができなくなっていく。



深谷さんは、このことを、「愛に生きる」P. 202で鈴木先生が書いていらっしゃることに重ね合わせます。

「さぁ用意！わたしといっしょにひいてください。この曲ですよ。」
この曲といっても、曲名はいわない。それを知るには、わたしがヴァイオリンをもって構えた姿勢、その気合いから感じ取るほかないのです。十人ぐらいの子どもたちは、びたっとわたしのとった姿勢になり、同じ気合いをこめます。そして、
「ハイッ！」と、声をかけてわたしがひき始めると同時に、それと同じ曲をみんながいっせいにひきます。
めったにまちがうことはありません。どの子もそのように育つのです。しかし、ときおりだれか、わたしはちがった曲をひくことがあります。知恵が働いたためです。たぶんこの曲だろうと思う心が働く結果です。
無心で、わたしの発した音からスタートすれば成功する。無心であれば、直感で、わたしの最初の音をとらえた瞬間にわかる。それは生命の共感です。それができるように育てる。わたしのいう「生命への教育」です。
この実能力一身についた自在な力を育ててゆけば、やがてその子は、そうした能力に助けられて、どの分野においてもすぐれた能力を発揮するように育っていくのです。

～「愛に生きる」P. 202 より～

幼児が成長とともに、（好ましくない環境にさらされ）感じ取る能力をどんどんくもらせていくことに対して、磨きをかけ続ける重要性を鈴木先生は説いていらっしゃると思われれます。近江聖人といわれた江戸時代の教育者中江藤樹は持って生まれた宝物を明らかにするためには「五事を正す」ことが大切であるといえます。五事とは和やかな顔つき（貌）、思いやりのある言葉で話しかける（言）、澄んだ目でものごとを見つめる（視）、耳を傾けて他人の話聴く（聴）、まごころをこめて相手のことを思う（思）、この五つです。もの言えぬ赤ちゃんに対しては親がこの気持ちをもって接し、そして成長とともに自身が五事を正すようにこころがけることが魂（生命）に磨きをかけ続けることであり、これが生命への教育の一番大切な点だと深谷さんはおっしゃいます。

§こころ（魂）に磨きをかける・・・「愛に生きる人」へ

目まぐるしく変化していくこれからの世の中、価値観が変わっていったとしても、いつの時代においても人間性が欠けていては何にもなりません。心ある人間教育を第一の目標に、「愛に生きる人」を育てるのがスズキ・メソッドの使命。子どもの生命（魂）に働きかける、魂に磨きをかけることの大事さ。子どもは本当にすばらしいんです！とおっしゃる深谷さんのお言葉。「より早く」「より沢山」の尺度だけではない、謙虚に子どもに向き合う親の在り方を学んだ一日でした。

♪フリートーク

★親が感じるできない何かを子供は感じていたのだなと、日ごろの子どもの行動を思い出して納得しました。親である自分たちがいいこと・よい環境づくりをして暮らしていることが大事なのですね。

⇒子供に言葉で言うて治ることはありません。親の行動が変わることが大事です。

私たちは子供に期待する時、すぐに期待通りのことをしてくれるよう望みますが、いい働きかけをしながら、待つことができるようになるのが大事です。子供はできるようになるまである一定の時期、停滞しているように見える時があります。

⇒子供にこうしたからこうなると単純に押し量れないものがあります。善かれと思ってしていることが子どもに悪い影響を与えていることも。良いも悪いもすべてひっくるめた環境のすべてを子供たちは吸収していると思わなくてはなりませんね。

★「愛に生きる」を読むと、読む度にそれぞれ違う思いが湧いてきます。現実をさておき、読んでいると心が落ち着きます。

♪参加した皆様からアンケート（感想）

★改めて日ごろの家庭での親子の在り方を振り返ることができました。やはり、親が育つと子が育つということを思いました。

★「愛を生きる」を読んでいる、自分では気づかないこともいろいろ学ぶことができました。教育や子育てすべてに通じる心のかんがえさせられる貴重なお話しを伺うことができました。

♪次回もたくさんの方のお越しをお待ちしております♪



<道しるべの会 スタッフ>

伊藤 達哉（指導者）、浅田 美幸（西名古屋支部）、伊藤 登美子（西名古屋支部）、後藤 寿子（東濃支部）、中村 和香子（東名古屋支部）、阿部 佐衣（豊田支部）

今後の予定は未定です。

決まり次第、指導の先生方・東海地区ホームページを通してお知らせいたします。